

推薦する取り組み

園館名

生息環境を再現した展示施設が引き出した
ユーラシアカワウソの哺育行動

アクアマリンふくしま

推
薦
理
由

アクアマリンふくしまでは 2015 年にユーラシアカワウソの生息環境を再現した展示施設をオープンした。陸上植物だけでなく水草や魚に囲まれて暮らすカワウソの展示は国内初事例で、その展示手法が評価され「2016 年エンリッチメント大賞」にノミネートされた(他薦)。2017 年 9 月に同施設で初めての繁殖があったが、その際以前の施設では見られなかった新たな哺育行動が複数確認された。さらにその行動はいずれも野生のユーラシアカワウソで観察事例があることも分かった。その行動とは以下の三点である。

1) 営巣行動: 旧施設で営巣行動が確認できたのは一か所のみであったが、新施設では合計六か所で営巣行動を行った。また出産に使用した巣は普段使用頻度が低く、隔絶性の高い場所にあった。野生でも母獣はテリトリーの中に複数の巣を設け、出産には最も隔絶性の高い巣を選択することが知られている。2) 巣の移動: 旧施設では産後二ヵ月まで同一箇所で哺育したのに対し、新施設では産後二日目から新生児を連れ不定期に巣を移動した。移動には気象条件が影響していることが示唆され、状況に応じて哺育場所を変更したことで、新生児の水中落下回数が激減した。野生でも産後二ヵ月までは母獣が定期的に巣を変える行動が確認されている。3) 旧施設では出産後水中で排便する様子が見られたが、常時ではなく陸上でも時折排便が見られた。新施設では、出産 5 日前から産後 78 日目まで水中でのみ排便し、陸上排便は一切確認されなかった。野生でも同様の行動が報告されている。

以上のことより、飼育環境を複雑化しより選択肢の多い環境で繁殖させたことで、母獣の行動が多様化したと言え、その結果、野生本来の行動を引き出すことにつながったと考えられる。今後も同施設での繁殖行動を記録し、野生下の観察事例とのすり合わせを行うことで、本種における生態的知見を得ることができると考えられる。



水草と魚に囲まれ泳ぐユーラシアカワウソ



植物を巣穴に運び込む母獣



巣穴で授乳



隔絶性の高い巣で出産



仔を連れ巣穴を移動する母獣